

令和3年度

鷺敷小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①一人一人の学びの確立を目指し、基礎基本の習得と自ら課題を解決する学習の仕方を身に付けさせる。
- ②学んだことを生かして進んで調べ、解決し、ともに表現して学び合い、高め合う学習に意欲的に取り組ませる。
- ③学校と家庭が連携し、家庭学習の定着と学びへの意欲づけを図る。
- ④学びの環境の充実のため、楽しい学校生活が体現できるよう、仲間づくりと規範意識の醸成を図る。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭・研修 岸本由加里	委員	校長・総括 教頭・特別支援コーディネーター 教諭・教務 養護教諭	川野雅弘 西川栄展 徳野千寿 川邊日南
---------------------------	----	---	------------------------------

校長

川野雅弘

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えつつ情報を共有し、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取組、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全体の70%の児童が、漢字の読み書きや計算問題などが正確にできる。 ●基礎的な力の定着において個人差が大きく、理解や定着が不十分であったり、学習してから時間が経つと既習の学習内容が曖昧になったりする児童もいる。	・漢字の読み書きが正確にでき、文章の中で正しく使えるようにする。 ・計算の仕方を身に付けて、正確に答えを導くことができる。	①授業やぐんぐんタイム(朝活)、家庭学習などを利用し、個人をつまづきを把握し、漢字の読み書きや計算問題に繰り返し取り組ませる。 ②授業では、つまづきやすいポイントを確認させ、ミニテストやフラッシュカードを活用して定着を図る。既習の学習内容については、適宜反復学習や振り返りの機会を設け、継続的に課題に取り組ませる。	・朝活の時間に継続して取り組む。 ・聞くドリルを使ったトレーニング等により聞き取る力を伸ばしていく。 ・ホワイトボードや付箋を用いて、自分の考えを書き留める時間を各教科で設定する。	・単元末テストの知識・技能の正答率は8割以上をほぼ達成できた。 ・個人差があり一部達成できていない児童もいる。	・習熟度に差が見られた単元については、難易度を段階的に設定したミニテストを作成する。 ・単元の振り返りの学習を、家庭学習に取り入れるよう指導する。

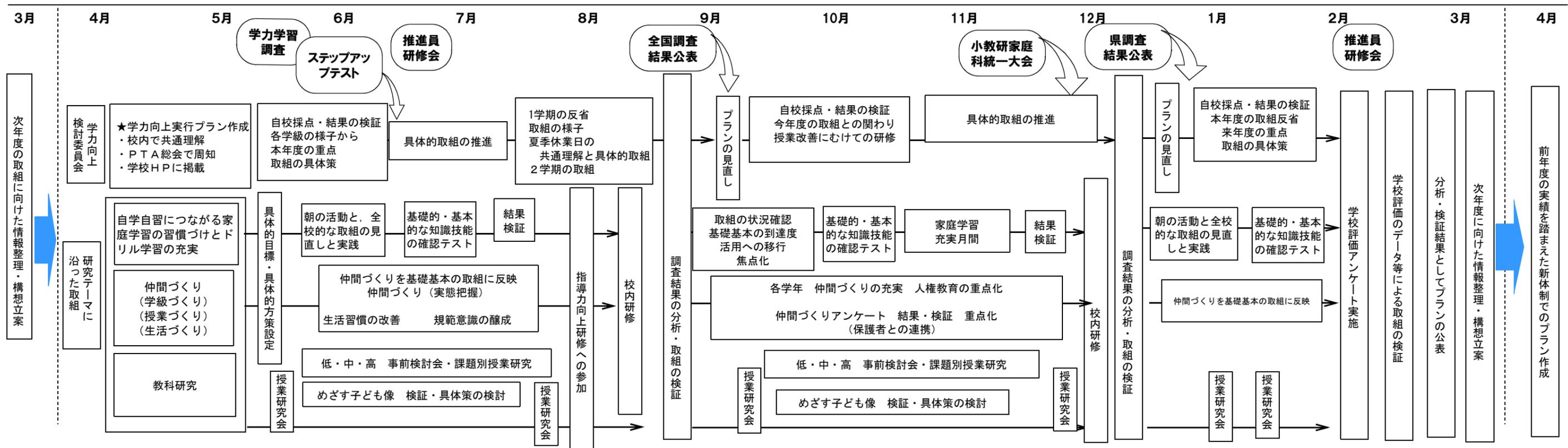
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学年によって差はあるが、ペアやグループでの話し合い活動を好む児童が多い。 ●自分の考えをもつことができても、根拠や理由を明らかにして、説明したり、書いたりする活動が苦手な児童もいる。	・自分の思いや考えをもち、根拠や理由を明らかにしながら、自分なりの方法で表現(書く・話す)しようとするができる。 ・語彙を増やし、自分の思いや考えをより正しく伝えることができる。	①文章表現力を高めるために書く機会を多く設定するとともに、実態に応じたためあてをもたせる。 ②タブレットやホワイトボードを活用し、図や表、言葉等で説明する機会(アウトプットする学習の場)を意図的に設ける。 ③ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、友達の見聞を聞いて学び合う姿勢を大切にする。	・段落の要点をまとめたり、短作文したり授業中のできることで繰り返し情報を処理して書く等の練習の機会を設ける。	・ほぼ全員の児童が、ノートやワークシート、タブレット等に、自分の考えを書いたり、他者の意見にコメントを書いたりすることができた。 ・既習の資料を活用し、根拠や理由を明確にして話せる児童が増えてきた。 ・語彙量に個人差があり、説明が苦手な児童もいる。	・課題提示や、グループでの話し合いにタブレットを効果的に活用し、対話的な学びを活性化させる。 ・教科の学びに沿って記録できるよう、ワーク類の活用法や内容の見直しを図る。 ・板書記録の短時を図り、考えを共有する時間を確保する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に真面目に取り組む、家庭での学習習慣も定着している児童が多い。工夫して自主学習に取り組むことができる児童もいる。 ●与えられた課題には取り組むが、自ら課題を見つけて取り組む児童は少ない。また、課題に根気強く取り組むことが苦手な児童もいる。	・課題や自主学習に対して、主体的に取り組む、最後まで根気強く取り組むことができる。	①児童の主体的な活動や体験を授業に多く取り入れる。 ②各教科で「めあて」と「振り返り」の時間を設定する。 ③家庭学習の内容を工夫して、主体的に取り組めるよう教科書の活用方法を提示したり、児童の自主学習の取組を学級で紹介したりして意欲を高める。 ④自学ノートのつくり方を教えるなど、学び方を学校で教える。	・継続して取り組む。 ・定期的に「家庭学習の手引き」について確認する。	・8割以上の児童が、自ら進んで取り組むことにより、課題を達成することができた。と捉えている。 ・9割以上の児童が、家庭学習に真面目に取り組める。漢字等は、答えを調べて正しく書こうとする児童が増えてきた。	・児童理解を深め、家庭と連携し、きめ細かな個別指導を展開する中で、体験的な取り組みを積み重ねていく。 ・基本的生活習慣を身につけ、生活のルーティンを守ることから授業中の態度、スクールマナーへとつなぎ、集中力へとつなげる。

令和3年度 学力向上ロードマップ



1

2